

(1) 2024年(令和6年)8月21日(水曜日)

# 埋設物への接近、AR画像や音で警報



ARによる自機のバケットと地下埋設物のCIモデルを見ながら安全に作業できる

## 岩田地崎とネクステラスが開発

### 3次元CIモデルを使用 公衆災害防止へ

岩田地崎建設(本社・札幌)は20日、重機の操縦室に取り付けたモニターを通して、3次元CIモデルで地下埋設物を可視化できる「AR(拡張

現店に7月から機器のレンタルを始めた。

代理店に7月から機器のレンタルを始めた。

岩田地崎建設(本社・札幌)は20日、重機の操縦室に取り付けたモニターを通して、3次元CIモデルで地下埋設物を可視化できる「AR(拡張現実)マシンガイダンスシステム」をソフトウエア開発のネクステラス(同)と共同開発したと発表した。バックホーのバケットが埋設物に近づく

も有効だ。

システムは専用のアプリケーショントールをインストールしたiPad Pro、重機の位置を補正するロケーションマーカー、バケットのアーカイブに装着するバケットマーカーなどで構成する。

2社共同で特許出願中。2023年11月に国土交通省の新技术情報提供システム(NETIS)に登録された。

張現実)マシンガイダンスシステム」をソフトウエア開発のネクステラス(同)と共同開発したと発表した。バックホーのバケットが埋設物に近づく

現場では、CIモデルを読み込ませたiPad Proが標準装備する画面を操縦席に取り付け、各マーカーを装着・配置し、現地の基準点とiPadの基準点を一致させて作業を開始。オペレーターはiPadの画面に表示されたARのバケッ

岩田地崎建設の遠田康英技術部担当部長は「実証実験を繰り返し、精度を高めてきた。リリースできてうれしい。普及することで現場の公衆災害が減ればいい。今後もシステムの改良を進め、さらに精度を高めていきたい」と意気込んでいる。